

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104209
法人名	株式会社ケアジャパン
事業所名	グループホームハッピー余戸Ⅱ
所在地	松山市余戸東2丁目7番13号 (電話) 089-965-3301
自己評価作成日	森 律子

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりの出来る事を把握し、毎日楽しく過ごして頂ける様に手づくりゲームやジグソーパズル等を用意し取り組んで頂いています。又、体力の維持をはかるために毎日ラジオ体操を取り入れ一人ひとりが出来る所を無理のないように動かしています。家事活動もみんなで協力し助け合って行う事が出来るように支援しています。家族や友人、知人が気楽に訪問して頂けるような雰囲気づくりに努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年8月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●夏場、暑い時期はむれて不快を感じる事が少ないように、できるだけ布パンツにパッドを使用するよう支援されている。立位をとることが難しい方も、トイレで排泄することが可能であれば、昼間は職員が2人で介助してトイレに座れるよう支援されている。男性の利用者で立位がとれる方については、排尿は男性便器を使用できるよう支援されている。
 ●現在は、「最期までここで」と希望するご家族が多いようだ。運営推進会議時、看取りや胃ろうについて議題に上げ、事業所での事例を報告されたり、参加者の経験談等をお聞きして話し合われたこともある。食事や水分の摂取量が減り、終末期を迎えた利用者へ、ご家族が昼食時、1ヶ月ほど食事介助に来られた。ご本人が、「もし何かあったら、何もしないでほしい」と直筆で書いた手紙をご自宅に残しておられ、ご家族が事業所に持参された。アイスクリームやまんじゅう等、ご本人の好むものを口にできるよう支援されたり、お好きなサイダーで水分をとる等しながら看取られた事例がある。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

株)ケアジャパン

(ユニット名)

グループホームハッピー余戸2

記入者(管理者)

氏名

森 律子

評価完了日

平成24年8月7日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所の理念を表示しその理念を職員間で共有し実践に努めている。	
			(外部評価) 事業所の理念に基づきユニット毎に「ほのぼのと安心できる心地良い我が家…主役はあなたです。」「あなたのやってみたい、行ってみたいを大切にします。」という理念を掲げておられる。事業所では、できることはご本人が行えるよう支援し、又、難しいところは職員がカバーして、利用者ひとりひとりが主役となり、日々生活できるよう取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 天気の良い日や入居者の体調の良い日には近くの公園へ散歩に行き、近所の方や子供達と会話を楽しんだり、庭の花を見たり仲良くしています。又、月に1回生協祭りに参加し手づくりのお寿司やコロッケなど購入し昼食にしています。地区の運動会にも参加し観覧しています。	
			(外部評価) 地域主催の盆踊りには、職員と一緒に10名ほどの利用者で参加して、車椅子を使用する方も輪に入り、地域の方達と踊りを楽しまれた。他事業所の運営推進会議に参加したことをきっかけに、行事に誘っていただくこともあるが、夜間行事ということもあり、参加するまでに至らなかったようだ。管理者は、今後、運営推進会議等を通じて他事業所と、「利用者同士でも交流できるよう支援したい」と話しておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議に老人会、町内会長、民生委員の方々に参加して頂き、認知症の人への理解や支援方法について理解して頂きつつあるが、そこから地域の人々へ向けて活かすところまではいっていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議においては家族、地域の方々の参加を仰ぎ意見交換を行うと共に、ホームの状況、取り組み等話し、その中で得た事については、サービス向上に活用しています。</p> <p>(外部評価) 会議には、民生委員、老人会会長、町内会長、市の担当者等に参加していただいている。すべてのご家族に会議の案内をされており、家族会と合わせて会議を行うこともある。今年度からは、地域のグループホームや小規模多機能事業所と、会議の相互参加をされている。管理者が他事業所の会議に参加された際、出席していた利用者がお化粧をしてアクセサリーを身に付け、表情が生き生きとされていたことから、「おしゃれをすることや、ワクワクする気持ちの大切さ」を感じられたようだ。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市の担当者の方は、運営推進会議には毎回して頂き、事業所の実情や、ケアサービスの取組み等伝え、意見やアドバイスを頂いています。又、日頃から解らない点について、電話等でお聞きするようにしています。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センターの呼びかけで、年2回、地域内の事業所で意見交換する機会を作ってくれており、今後は、災害時、特に地震発生時の対応等について、地域の事業所同士、協力し合えるよう話し合う予定となっている。目と耳の不自由な利用者には、松山市社会福祉事業団の手話生活相談室の方が毎日のように訪問していただき、コミュニケーションをとってくださっている。通院時等、同行して下さることもある。成年後見制度を利用している方には、後見人の方が定期的に訪問して下さっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 大腿骨骨折で退院された方が、歩行できないということが認知のため解らないで、立ち上がり歩こうとされるため、家族に説明し、書類にサインをして頂きベルトをしています。月1回カンファレンスを行い検討しています。</p> <p>(外部評価) 民家を改修しているユニットは、玄関は網戸にされていた。デイサービスの2階にあるユニットは、ユニットの入り口が開くとチャイムが鳴るようになっていた。現在、ベッドからの転落や立ち上がり時転倒する心配がある利用者が2名おられ、夜間は職員の目が届きやすいように、居間にベッドを置き、つい立を立てて休んでもらっている。又、骨折後、車椅子を使用することになった方が立ち上がろうとされ、転倒する心配があること等から、固定ベルトを付けている方がいる。現在、職員が付き添って、1日1回、15分程度ベルトをはずす時間を作ることを試しておられた。</p>	<p>管理者は、「共有スペースで寝ていただくことは、本来の姿ではない。居室で落ち着いて寝ていただくようにしていきたい」と話されていた。身体拘束をすることでの弊害についても考えて、利用者の立場からケアについて検討して、身体拘束をしないケアが実践できるよう、取り組みを工夫されてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 自己評価表を作成し、毎日評価し自己反省して、スタッフ間でも意見交換しやすい雰囲気作りをしています。スタッフ用のトイレ内に言葉の暴力になりうる「NGワード」を貼り心地良い言葉を使うように意識しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 聴覚視覚障害者の方に成年後見人がついており、職員はミーティング等で制度について学んでいます。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時契約に関する事項については、文書にて説明し、家族に渡すようにしています。説明の際、納得のいかない事、疑問に思う事について聞き理解して頂く様にしています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者、家族の意見、要望等については、月1回本社にてミーティングの際、伝え改善に努めています。又、運営推進会議にて地域の人々利用者家族の参加で意見、要望を聞き会社に伝え結果を報告するように努めています。 (外部評価) 年2回発行する「よしこハウス便り」には、タイミングが合えば、退職や新人職員の写真とコメントを載せ、ご家族に知らせておられる。ご家族の中には、「できることは協力させてほしい」と申し出てくださる方も多く、外出等の行事時には、ご家族に案内して、車椅子を押す等、協力していただいている。5月のいちご狩りには、6名ほどのご家族が参加され、「自宅にいたら連れて行くことはできない。楽しくて、よかった」と感想があったようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ホームの代表者が職員の意見や要望を聞き、月1回の本社 でのミーティングにおいて提案しています。	
			(外部評価) 法人全体で、「なんでもいいま書」という職員の意見や要望が 出せる仕組みがある。又、設備の改善や勤務体制等につい ては、月に1度行われる「本社ミーティング」にて管理者が意 見や要望を上げ、実現に向けて話し合いをされている。これ までに、職員の意見や提案から、洗濯場やユニット間の通路 に屋根を付けたり、浴室の手すりを設置することにつながっ ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、 勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やり がいなど、各自が向上心を持って働けるよう職 場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ホーム長や職員個々が勤務や、給与等について疑問や意 見を会社の代表者に伝え、各自が向上心を持ち働きやすい 環境、条件整備に努めてもらっています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている	(自己評価) 毎月の研修会の情報を伝えてもらい、職員が各自興味のある 研修を受ける事が出来るようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互 訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上さ せていく取組みをしている	(自己評価) 今年度から近隣のグループホームや、小規模多機能の運営 推進会議に参加させてもらったり、参加していただいたりする 機会を設け、ネットワークづくりに取り組んでいます。	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、本人の安心を確保するための関係づくりに 努めている	(自己評価) 入居時、本人、家族から困っている事、不安な事、要望等を 聞き新しい環境にはやく慣れるよう職員間で話し合いをもち 検討しています。又、本人がはやく安心して生活出来るよう、 常に本人の声に耳を傾け、実現出来るよう努力しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) まずサービスを利用する前に、見学に来て頂き、その際に家族が不安に思っている事や、要望をお聞きし、開始する前に再度、お聞きする事で、家族との信頼関係を作るように努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前に本人と家族に会って話を聞く事で今、必要としている支援を見極めて成年後見など、いろいろなサービス利用を含め対応に努めています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 自立支援という事をふまえた上で、入居されている方1人1人の状態を把握し、出来る事をして頂く様に支援しています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) いつでもホームに訪問して頂いたり、外出や外泊をして頂いています。又、行事への参加もして頂いています。ホームを訪れた際、いろいろとお話をお聞きするようにしています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人がホームに訪れたり、華族と一緒に墓参りや故郷に帰ったり、又外泊をする等、今迄過ごしてきた人や、場所との関係が継続出来るよう支援しています。 (外部評価) ご自宅の近所の方や友人が訪ねて来られたり、行きつけの美容室の方が送り迎えして下さり、髪を切って来られる方もいる。利用者から「お墓参りに行きたい」等の希望があった時には、ご家族に伝えるようにされている。管理者は、「みなさん一緒に」という考えで支援されており、利用者個々に背景や身体状態等に様々な違いがあり、「個別に支援することは難しい」と話されていた。さらに、個別で細やかなケアを提供することがグループホームの特徴でもあり、個々の生活歴等も踏まえて、「利用者が主役」となる支援に取り組まれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ほとんど日中は、リビングで過ごしお互いに話をしたり、協力し家事活動を行ったり、又居室を訪問したりするなど一人ひとりが孤立せずお互いに関わりを持っています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 死亡にてサービス利用が終了後も、電話で話を聞いたり相談支援に努めています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの希望(喫茶店にいきたい。買い物に行きたい、今日ほお魚が食べたい。等)を聞き思い通りの暮らしが出来るよう職員間で話し合い検討し工夫するように心がけています。 (外部評価) 入居時に、ご家族から生活歴や趣味、得意なこと、一日の過ごし方、食べ物の好み等をお聞きしている。併設デイサービスを利用されていた方は、デイサービスの職員からも情報を得ている。「何かお役に立ちたい」「できることはやらせてもらいたい」と希望される方には声かけして、職員と一緒に洗濯物を干したり、たたんだりできるよう支援されている。	職員は「利用者のお話をゆっくり聞く時間を作りたい」と思っておられる。さらに、利用者の言葉や表情、行動等から個々の思いや意向を探るような取り組みもすすめていかれてほしい。ご自分の気持ちをうまく伝えることができないような利用者や、重度化した利用者も事業所やユニットの理念に沿った暮らしを支援できるように、職員は日々の中から情報を集めて支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居される際、家族や本人に生活歴、生活環境を聞き職員が情報を共有するようにしています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活を記録し変化があれば申し送りをし、職員間で一人ひとりの現状を共有し支援するよう努めています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			ミーティングの際に今の課題について検討し、ケアのあり方を話し合いをしている。家族や本人にはカンファレンスの際に、話しを聞き介護計画を作成している。	
			(外部評価)	
			利用者個々の担当職員が、食事・睡眠・入浴・排泄・日中の行動等について、毎月アセスメントして、「気をつける点」は、赤字で記入し、生活課題の内容や程度を明らかにできるよう取り組まれている。モニタリングは、3ヶ月に1度実施され、計画の見直しにつなげておられる。ご家族には、来訪時等にケアの希望を聞き取っておられ、ご本人とご家族の希望を踏まえ、ミーティング時に職員で話し合い、計画を作成されている。計画作成後は、ご家族に、「これでいいか、付け加えることはないか」と、聞くようにされている。計画には、支援内容の「手順書」が加えられており、支援方法が「新人職員でもわかるように」工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日々の生活の様子や変化、気づきやつぶやきを個人記録に記入し又、申し送り等で情報を職員間で共有し実践すると共に、介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			成年後見や手話、盲ろう等の支援、サービスを受けている。又、ボランティアでピアノ演奏等3ヶ月に1回来て頂き音楽を楽しんでいます。髪のカットも来て頂いたり、行きつけの美容院へ送迎付きで行ったりしています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域の運動会、夏祭り、日曜日、ピアノ演奏ボランティア、美容師の訪問等、一人ひとりが安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 今迄、在宅の際のかかりつけ医が、入所されてからも往診に来ていただいています。又、病気によっては家族の希望により病院に受診して頂いています。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が、24時間対応可能な協力医療機関をかかりつけ医とされており、週に1度往診がある。以前からのかかりつけ医を受診される方は、定期受診は基本にご家族に付き添っていただくようになっている。歯科診療の必要な方は、訪問診療を利用できる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 1Fのデイサービスの看護師と連携をとりその時々々に相談、対応しています。入居者の日常の体調等の情報についても共有し支援しています。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時、家族と同行し病院関係者との情報支援を行うと共に、退院時病院関係者とカンファレンスを行い、情報交換や相談を行っています。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期に向けて、早い段階より本人、医師、家族等と話し合いを持ち、ホームで出来る事、出来ない事を十分に説明しながら、チームで支援に取り組んでいます。	
			(外部評価) 事業所では、入居時に「看取りに関する指針」に沿って、事業所での看取り支援について、ご家族に説明をされている。現在は、「最期までここで」と希望するご家族が多いようだ。運営推進会議時、看取りや胃ろうについて議題に上げ、事業所での事例を報告されたり、参加者の経験談等をお聞きして話し合われたこともある。食事や水分の摂取量が減り、終末期を迎えた利用者にご家族が昼食時、1ヶ月ほど食事介助に来られた。ご本人が、「もし何かあったら、何もしないでほしい」と直筆で書いた手紙をご自宅に残しておられ、ご家族が事業所に持参された。アイスクリームやまんじゅう等、ご本人の好むものを口にできるように支援されたり、お好きなサイダーで水分をとる等しながら看取られた事例がある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の急変や事故発生時について、全職員が対応出来るようにしているが、応急手当についての訓練を定期的には行ってないため、今後実践して行きたい。今年度、AEDを施設内に設置している。今後講習を受ける予定にしています。</p>	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<p>(自己評価)</p> <p>東北の震災の教訓の元に、今までは火災での訓練が主であったが、地震における避難訓練を行っています。地域の防災士の方々にも協力をしていただいています。又、地区の防災訓練にも参加しました。</p> <p>(外部評価)</p> <p>7月に地域で行われた防災訓練に参加された。いざという時は、地域の防災士の方々とも連絡が取れるようになっており、利用者の避難を手伝っていただけるよう、協力体制を築いておられる。今年度、「よしこハウスⅠ」ユニットには、自動火災報知機が設置された。7月には、事業所のある建物内にAED(自動体外式除細動器)を設置され、近々使用方法等について受講予定となっている。管理者は、事業所にAEDがあることや、使い方を知らせていただくために、地域の方やご家族にも講習会に参加いただけるよう、案内したいと考えておられた。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ことばかけについては良いことばかけ、言ってはいけないことばかけの例を書き出し、常に目に触れる所に表示し、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう、日々気をつけています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>昨年一年間は、職員の言葉遣いや行動等、法人が示した「3つの基本行動」について、職員個々にABCDで自己評価を行い、日々の利用者への対応等について振り返るようになされた。職員は、「自分だったらどうしてほしいか」ということを考え、利用者や接するようになされている。事業所が発行する「よしこハウス便り」は、利用者の写真が多く載せられているが、ご家族の同意を得られないような利用者には、顔がわからないようにイラストを貼り付けて加工されている。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<p>(自己評価)</p> <p>声かけ、問いかけの際、本人が選択出来るよう気をつけると共に、一人ひとりの思いや希望を聞き取り、実現出来るように支援しています。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの出来る事を見極めやりたい事、例えばジグソーパズルやツルの折り紙等、聞き希望にそって支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時や、入浴の際に着たい衣服を選んで頂いたり、美容院に行きたい方は、今迄行きつけの美容院に送迎して頂き行く等してその人らしい身だしなみや、おしゃれが出来るよう支援しています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの力に応じて食材の下ごしらえをして頂いたり、切ったりして頂く様、支援しています。又、食事の準備や片付け等も、それぞれ自分の物は自分でして頂いています。又、食べたい物を聞いてメニューに取り入れるようにしています。 (外部評価) 昼食は、「よしこハウスⅠ」は、週3回、「よしこハウスⅡ」は週5回、業者から密閉容器に入ったおかずが届くようになっている。その他の食事は、ほぼ毎日食材の買出しに行き、ユニット毎に手作りされている。歩行できる利用者が一緒に買い出しに行き、食材を選んだり、買い物袋を掲げてくださるようだ。献立は、利用者の好まれそうなものを採り入れ、旬の食材を使用したり、煮物等利用者にとって懐かしいおかずを作るようにされている。又、お寿司を好まれる方が多いため、巻き寿司やいなり寿司を買ったり、握り寿司の出前をとることもある。利用者は、以前は包丁を使って野菜の下ごしらえ等をされていたが、重度化がすすみ難しくなり、豆のすじ取りや、ゆで卵の殻むき等をされている。調査訪問時はカレーライスで、職員が利用者「このくらいいいですか」と聞きながら、ご飯やルーを盛っておられた。下膳は、利用者個々にされており、車椅子を使用する方もプラスチックのかごに食器を入れて、膝の上に乗せ、落ちないように、肘掛けとかごを大きなクリップではさむようにして固定し、運んでおられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食べる量や水分量等、日々チェックシートに記入し確認しています。又、嚥下機能が低下している方にはミキサー食、水分にはトロミを使用して対応しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 義歯ははずして歯ブラシで出来る方は、自分で磨いて頂き後の仕上げを職員がしています。出来ない方は、専用ブラシで職員が口腔内をみがいています。口腔内の状態によっては、医師に来て頂きケアしています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握し、時間を見てトイレの声かけ誘導をしています。	
			(外部評価) 夏場、暑い時期はむれて不快を感じることを少ないように、できるだけ布パンツにパッドを使用するよう支援されている。立位をとることが難しい方も、トイレで排泄することが可能であれば、昼間は職員が2人で介助してトイレに座れるよう支援されている。男性の利用者で立位がとれる方については、排尿は男性便器を使用できるよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の回数、量等、排泄チェック表に記録し対応しています。又朝排便を促すように、ヨーグルトや豆乳、繊維質の物を摂って頂ける様工夫しています。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの希望を聞き、出来る限り入浴して頂けるようにしています。出来る事は自分でして頂ける様声かけし、出来ないところを職員がお手伝いしています。	
			(外部評価) いろいろな色と香りの入浴剤を用意されており、利用者希望をお聞きして選んでもらいながら入浴を支援されている。基本的に、ボディソープを使用しておられるが、ご本人の好みで石鹸を使う方もおられる。入浴に気がすすまない方もあがるが、職員は、声かけのタイミング等を工夫して、週に2回は入浴できるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間安心してぐっすり眠っていただけるよう、環境を整えるよう努めています。又、不眠で立ち上がりが悪く、安全面に不安がある方については、家族と相談しリビングにベットを移動し寝て頂いています。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	薬の目的、副作用、用法、用量について理解し体調の変化があれば医師に相談し、支持を得るようにしています。薬の変更など申し送りノートに記入し徹底しています。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	一人ひとりの力量に応じ、ジグソーパズル、間違い探し、手づくりゲームを準備し楽しく過ごせるよう、又、気分転換ができるよう配慮しています。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	天気の良い日は、近くの公園に散歩に出かけたり、又家族と一緒に近くの喫茶店に行ったり、墓参り、デパート、外食等に行ったり協力して頂き出かけるよう支援しています。
			(外部評価)	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	一人ひとりの持っている能力や、希望に応じてお金を所持し、買い物に同行し、使えるように支援しています。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	携帯電話を使用し、自らかけたり、かかってきたり、手紙も近くの親戚や友人とのやりとりが、出来るように支援しています。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共同の空間や、玄関には季節がわかるように、環境構成を施し、花を飾るなどして、心地良く過ごせるように配慮している。又、トイレ等がわかりやすいように、表示を車椅子の方の目線にあわせる等工夫しています。	
			(外部評価) 民家を改修している「よしこハウスⅠ」のユニットは、日当たりのよい玄関先に洗濯物や布団が干してあり、利用者が洗濯物を干す様子がうかがえた。虫かごに鈴虫を飼っておられ、時々「リーン」と鳴くと、職員が「今、鳴きましたね」と利用者に声をかけ、一緒に楽しんでいた。デイサービスの建物2階にある「よしこハウスⅡ」のユニットは、壁に外出や行事等の写真や利用者が作ったジグソーパズルの作品を飾っておられた。廊下の一角には、観葉植物が置かれてあり、利用者が水やりをされている。今年設置されたデジタルの温湿度計をみながら室温調節をされており、天井が高く、エアコンと扇風機を併用しており、涼しい風が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自分の座る席が解らない方については、テーブルに名前を書き座って頂いています。同じテーブル同士で助け合ったり、又時には職員が入りしりとりをしたり、歌を唄ったりする時もあります。気の合った利用者同士が互いに居室を訪問し、話をしています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居の際、居室に今迄使い慣れたものを持参して頂き家族、本人が過ごしやすいよう配置して頂く様にしています。	
			(外部評価) 調査訪問時、居室のソファに座り、テレビで高校野球を観戦する利用者の様子があった。ご家族と一緒に撮った写真や、ご家族が作った船の模型を飾られている居室もみられた。位牌を持って来られ、毎朝、ご自分でお水を代えたり、お菓子等をお供えする方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) リビング等、車椅子の方でも思うように移動する事ができるよう、テーブル等の配置も考慮し、広くし安全に生活出来るように工夫しています。	